

令和 6 年度 第 2 回

立川市立中学校部活動の地域連携及び
地域移行に関する検討委員会

令 和 7 年 2 月 4 日 （ 火 ）

立川市教育委員会事務局教育部指導課

令和6年度 第2回立川市立中学校部活動の地域連携及び
地域移行に関する検討委員会

日 時 令和7年2月4日（火） 午後3時30分～午後5時00分

場 所 立川市役所 本庁舎 208・209会議室

出席委員

芦澤 清八

足立 香織

井上 隆一

小野 克城

齋藤 真志

佐藤 善人

渋谷 里美

田中 義典

都築 啓志

早瀬 健介

水越 伸朗

出席事務局職員

産業文化スポーツ部地域文化課長

轟 誠悟

産業文化スポーツ部スポーツ振興課長

中村 達也

教育委員会事務局教育部教育総務課長

臼井 隆行

教育委員会事務局教育部生涯学習推進センター長

庄司 康洋

教育委員会事務局教育部指導課長

佐藤 達哉

教育委員会事務局教育部主任指導主事

片山 伸哉

教育委員会事務局教育部指導課指導係長

武村 俊泰

教育委員会事務局教育部指導課指導係主任

村松 真由美

次 第

1. 今年度の取組について

- (1) トライアル事業の進捗について
- (2) 広報活動について

2. 他自治体の事例について

3. その他

- (1) 部活動改革に関するアンケート（東京都）の集計結果について
- (2) 意見交換

資料 1：トライアル事業の進捗について

参考資料 1：教育情報誌「たち」(令和 6 年 11 月 10 日号)

参考資料 2：他自治体の事例について

参考資料 3：東京都 令和 6 年度「未来へつなぐ 部活動改革 アンケート」集計結果

※参考資料は委員のみ配布

令和 6 年度第 2 回立川市立中学校部活動の地域連携及び地域移行に関する検討委員会

令和 7 年 2 月 4 日

【委員長】

これより令和 6 年度第 2 回立川市立中学校部活動の地域連携及び地域移行に関する検討委員会を開催いたします。

1. 今年度の取組について

(1) トライアル事業の進捗について

【委員長】

それでは議事にはいります。次第の 1「今年度の取組について」(1) トライアル事業の進捗について、事務局より説明をお願いします。

【事務局・主任指導主事】

資料 1 をご覧ください。

まず、中央大学ですが、令和 6 年 2 月から立川第五中学校の卓球部で学生が指導しております。また、令和 6 年 11 月からは立川第二中学校の陸上競技部で学生が指導を開始し、土曜日を中心に携わっています。

続きまして、明星大学ですが、今年度、大学の方に、部活動の指導を希望する学生の取りまとめについてお願いをいたしましたが、結果的に今年度は希望する学生がいませんでした。来年度も引き続き協力の依頼をする予定です。

続きまして、東京女子体育大学ですが、令和 7 年度から部活動マネジメント演習という、学生が部活動の実技指導等に関わる取組が予定されています。現時点では、学生による実技指導、練習方法や練習計画の提案、安全管理、練習試合・大会等の引率などが想定されております。今後、教育委員会から各中学校に、大学生の受け入れ希望調査などを行い、来年度からの実施に向けた準備を進めていきます。

以上です。

【事務局・スポーツ振興課長】

スポーツ振興課より、スポーツ競技団体およびプロスポーツチーム関連でご報告をいたします。

スポーツ協会加盟団体では、令和 7 年度に地域スポーツ団体によるトライアル事業を実施予定で、準備をしてございます。今後、スポーツ協会とご相談をさせていただき 1 競技団体程度、また中学校の中からモデル校を選定させてい

ただき、トライアル事業を行い、部活動指導の可能性、課題を把握してまいりたいと思っております。こちらについては令和7年度予算が認められ次第、進捗をご報告できればと考えてございます。

次に、企業プロスポーツチームでございます。プロスポーツチームとは連携協力に関する協定を締結している団体がございますが、個別具体的に部活動に関する協定内容ではございませんので、今後、どのような形でご協力をいただけるのかというところは、引き続き模索をしてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

【事務局・地域文化課長】

地域文化課より、国立音楽大学とのトライアル事業の進捗について報告させていただきます。令和6年10月31日付けで、東京都教育委員会と国立音楽大学との間での連携協力に関する協定書の締結がございました。その内容について11月に担当者の方にお会いし、状況の確認をしましたが、具体的な連携内容は今後詰めていくということでした。

立川市は、平成20年3月25日付で国立音楽大学と協定を結んでおり、連絡協議会という定例的な会合があります。2月6日に国立音楽大学と協議会の幹事会を開く予定になっています。

他のトライアル事業の情報を共有しながら、どのような形で連携が図れるか考えていきたいと思っております。

以上です。

【委員長】

ありがとうございました。ただいまの説明について、ご意見、ご質問等がございますか。

【A委員】

立川第五中学校卓球部と中央大学との連携について、最近の状況を報告いたします。中央大学の学生さん4名ほどが、本校卓球部の練習に部活動外部指導員として来てくれていましたが、夏の大会以降、大学側がテスト期間に入り、その後、活動に来てもらえていない状況です。

以上報告です。

【事務局・指導係長】

個人の都合などで指導員が活動を辞めてしまうケースがあることは承知しています。

部活動の地域連携をより一層推進していくため、今年度、部活動外部指導員の謝礼単価を見直しましたが、依然として人材確保に課題があると認識しています。令和7年度に向けては、支払総額を増やせるよう準備を進めているところです。

以上です。

【委員長】

ちなみに単価はいくらなのでしょうか。

【事務局・指導係長】

部活動外部指導員の謝礼単価は令和5年度まで750円でしたが、令和6年度は1,000円に変更いたしました。令和7年度に向けては1回の指導当たり2時間までとなっている謝礼の上限を廃止し、活動実態に合わせた謝礼額を支払うことができるように予算編成を進めたところでございます。

以上です。

【事務局・主任指導主事】

少し補足をさせていただきますと、今年度までは活動時間の上限が2時間で、1日あたり2,000円までの謝礼をお支払いしていますが、来年度予算では、例えば4時間活動いただいたら4,000円お支払いできるように、予算編成を進めました。

以上です。

【委員長】

ボランティアで人を頼るという考え方は、時代のニーズに合っていない感じがします。来年度は難しいのかもしれませんが、今はアルバイトの時給も上がってきているので、せめて最低賃金程度の単価でないと、学生は集まらないでしょうし、立川第五中学校のトライアル事業の報告のように、来てくれた学生さんも続かないのではないかという気がします。

東京女子体育大学さんの取組のように、授業等で行っていくのは良いポイントだと思います。

【B委員】

部活動外部指導員の謝礼単価について、今課題としてあげられましたが、部活動外部指導員は有償ボランティアという身分でして、部活動指導員と部活動外部指導員にそれぞれ求められている役割が違うはずですので、現在どういっ

た整理になっているのか、事務局から説明をお願いします。

【事務局・指導係長】

部活動指導員と部活動外部指導員の役割等の違いですが、部活動指導員は立川市の会計年度任用職員という身分で、教員に代わって技術指導や大会等の単独引率も行います。一方、部活動外部指導員は、有償ボランティアという身分で、学校管理職や顧問の教員の指示のもと、生徒に技術指導や、その補助を行うという役割です。

【B 委員】

部活動の地域連携・地域移行の地域連携の部分については、すでにある部活動指導員や部活動外部指導員で運用しているところがあります。昨年度の検討委員会を経て推進計画が策定されたことを踏まえ、今後の方向性として、既存の地域連携の部分について、どういう課題があり、どのように改善していく必要があるのか、あるいはこの先の地域連携に向け、こういった取組が必要なのか、整理し、段階を追って取組んでいく必要があるのかと思っております。

以上です。

【委員長】

トライアル事業について、ほかにご質問等はございますか。

<質問無し>

【委員長】

それでは、トライアル事業についてはここまでにして、今後の方向性や、課題については、意見交換でご意見頂戴できればと思います。

(2) 広報活動について

【委員長】

続いて、次第の1「今年度の取組について」(2) 広報活動について、事務局より説明をお願いします。

【事務局・指導係長】

参考資料としてお配りした、教育情報誌「たち」をご覧ください。教育情

報誌「たち」は、教育分野における立川市の取組を紹介することを目的として、年3回発行している、カラー版のタブロイド紙です。3ページ上の方に記事が掲載してありますので、ご確認お願いいたします。

11月10日号に、「未来につなぐ部活動改革 市立中学校部活動の地域連携・地域移行の取組」と題して、特集記事を掲載しました。その中で、「部活動の現状と課題」、「部活動の地域連携・地域移行とは?」、昨年9月に策定した「計画の推進目標」について解説したほか、「地域連携の取組事例」として、立川第五中学校卓球部における中央大学学生による技術指導について、写真付きで掲載しました。さらに、教員に代わり実技指導などを行う、部活動指導員についての募集記事を掲載しました。

今後も、中学校部活動の地域連携・地域移行を推進するための広報・周知に努めていきます。

【委員長】

ただいまのご説明について質問等ございますでしょうか。

<質問無し>

【委員長】

引き続き広報等、よろしくお願いいたします。

2. 他自治体の事例について

【委員長】

続きまして、次第の2. 他自治体の事例について、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局・指導係長】

参考資料としてお配りした、他自治体の事例をご覧ください。

最初に、調布市の取組です。

資料の半分から下、「地域移行の推進（地域クラブ活動のモデル実施）」の表をご覧ください。事業の趣旨として、「地域クラブ活動のモデルとして実施し、地域移行に向けた課題を抽出・分析」とあります。種目は囲碁で、選定理由については、「特定の学校にしかない部活動のため、他校生徒の体験機会の確保」

とした上で、「方向性」は、「既に市の囲碁連盟から平日の部活動に指導員を派遣しているスキームを応用し、休日の地域クラブ活動のモデルとして実施」、
「回数・場所」については、「月 1 回程度の実施を想定」「場所は市内中学校施設や文化施設を中心に検討」とあります。

既にあるスキームを活用、応用する点などは、参考にできると考えます。また、「大学連携を活用した取組についても検討」とあります。

続いて、武蔵野市の取組です。

武蔵野市は、「部活動は学校教育の大切な取組の一つとして、先生方の負担軽減をしつつ、当面は学校管理下にて、着実な地域連携を進めます。」という方向性を示したうえで、資料表面の下部にあるように、「地域スポーツ等で活躍している方々に、部活動の指導を協力してもらおう」方針を示しています。こちらも、既にある「部活動指導員」というスキームを活用・応用する取組です。

続いて、八王子市の取組です。

八王子市では、部活動の地域移行に向けた取組の一環として、地域のスポーツ・文化芸術団体、ボランティア団体など、中学生を中心とした子ども達が参加できる地域活動の情報を紹介しています。市のホームページには、「学校部活動と並ぶ子ども達の体験活動の選択肢としてご活用ください」と紹介されています。八王子市のこの取組も、既にあるスキームを活用している取組となります。

【委員長】

ありがとうございました。

ただいまの説明について、ご質問等がございましたらお願いいたします。

【C 委員】

今回ご紹介いただいた 3 市の担当者へヒアリング等を行っているのでしょうか。それとも、ホームページ等から得た情報のみの提供なのでしょうか。

先ほどの「たち」の記事を見る限りでは、中央大学との地域連携は盛り上

がってるように見えますが、実際は活動に参加いただけていないといった報告があったように、他市についても、同じようなことが言えると思うのですが。

【事務局・主任指導主事】

今回ご紹介した3市については、指導課ではヒアリング等は実施しておりません。公開されている情報のみの提供となります。

ただ一方で、立川市の取組がなかなか進まないなかで、他市の事例は参考になる部分もあると受け止めております。委員の皆様は情報提供し、「立川市はこんなふうにもっと進めた方が良いのではないか」といったアイディアやご意見をお伺いしたく、今回お参考資料として提供させていただいております。

【事務局・生涯学習推進センター長】

八王子市で紹介した取組については、社会教育部門が担当しており、少し話を聞いていますので、補足させていただきます。

八王子市では部活動改革の取組の一環で、地域で組織しているようなクラブやボランティアグループなどに声をかけ、登録し、スポーツ・レクリエーション団体一覧、文化・芸術団体一覧など、ホームページで公開しています。

マッチングには課題があるそうですが、チャンネルを多く設けることで、部活動改革の取組を補完できるのではないかという考えのようです。学校教育部門と生涯学習スポーツ部門が連携して、取り組んでいるとのことでした。

【C委員】

ご説明ありがとうございます。部活動の問題というのは、地域に限らず、日本全国が抱えてる問題ですので、情報の共有はぜひ積極的に進めていただき、いろいろな方向に生かしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございます。ご指摘ごもっともだと思います。ご紹介いただいたような市と連携することも重要だと思いますが、スポーツ庁が何年も前から熱

心に取り組を進めていますので、立川市のトライアル事業のような、地域の人材を生かすことに成功している自治体もたくさんあります。

そういった成功事例をもつ先進的な自治体の部活動の様子を、事務局や本委員会の何名かの委員で直接見に行き、担当者と話をすることで、有効な情報が得られると思いますし、見聞きし、学んだことを導入するというのも一つ手かだと思いますので、そのような予算を多少つけることも、事務局で検討していただければありがたいと思います。

3. その他

(1) 部活動改革に関するアンケート（東京都）の集計結果について

【委員長】

続きまして、次第の3「その他」に入ります。(1) 部活動改革に関するアンケート（東京都）の集計結果について事務局より説明をお願いします。

【事務局・指導係長】

参考資料としてお配りした、「未来へつなぐ部活動改革アンケート 集計結果」をご覧ください。

このアンケートは、令和6年7月に東京都が実施したものです。対象は、都内公立中学校の第2学年生徒、その保護者、都内公立中学校の教員です。対象者全体の回答率は約22%となっています。東京都全体の集計結果として、生徒、保護者、教員に分けてまとめられていますので、主なポイントを説明いたします。

3ページの4をご覧ください。

「今後、部活動を通して、どのようなことを得たいですか。」との質問に、【生徒】の78.9%、8割近くの【生徒】が「楽しさ」と答えています。次に多いのは70.9%の「技能向上」です。

13ページの4をご覧ください。

同じ質問を【保護者】にしています。「今後、お子様には、部活動を通して、どのようなことを得てほしいと思いますか。」との質問に、【保護者】の90.9%、9割以上の【保護者】が「楽しさ」と答えています。次に多いのは「仲間と交

流」の 77.7%です。

【生徒】【保護者】に共通する「部活動を通して楽しさを得たい」「楽しさを得てほしい」との回答は、推進計画の冒頭に「未来につなぐ部活動改革」と題して掲載しているメッセージ「この取組の主役は子ども達です。子ども達が、地域の中で笑顔にあふれ、スポーツ・文化芸術活動に親しめる環境を、本市は地域全体で支えていきます」に通じるものがあると考えます。

続いて、4 ページの 6 をご覧ください。

最初に【生徒】への質問・回答です。

「現在、参加している部活動について、困っていることはありますか。」との質問に、【生徒】は、「該当なし」(＝困っていることはありません)との回答が 47.3%と半数近くを占めています。「困っていることがある」回答の中では、「技能向上」が 17.6%で最多となっています。

続いて、3 ページの 5 をご覧ください。

「今後、資格のある専門的な指導者から指導を受けたいと思いますか。」との質問に、【生徒】は「思う」「やや思う」が合計 72.5%となっています。

次に【保護者】への質問・回答です。

14 ページの 6 をご覧ください。

「現在、お子様が参加している部活動について、困っていることはありますか。」との質問に、【保護者】は、「該当なし」(＝困っていることはありません)との回答が 42.6%と最も多くなっています。「困っていることがある」回答の中では、「技能向上」が 21.2%で最多となっています。

続いて、13 ページの 5 をご覧ください。

「今後、お子様に資格のある専門的な指導者から指導を受けさせたいと思いますか。」との質問に、【保護者】は「思う」「やや思う」が合計 85.7%となっています。同じ質問への【生徒】の「思う」「やや思う」の合計 72.5%より 10%以上高くなっています。

以上から、【生徒】【保護者】ともに、「現行の部活動に必ずしも全員が不満を感じている訳ではなく、むしろ好意的に受け止めている」割合が半分近くいること、要望の中では、「専門的な指導者からの指導」による技能向上の優先順位

が高いことが分かります。

最後に【教員】についてです。

26 ページの 8 をご覧ください。

「自分の専門の部活動について、指導や運営に携わりたいですか。」との質問に、「平日のみ」「休日のみ」「携わりたくない」の合計が 74.1%で、「平日・休日（とも携わりたい）」は 25.9%にとどまっています。

次に、27 ページの 9 をご覧ください。

「自分の専門ではない部活動について、指導や運営に携わりたいですか。」との質問に、「(平日・休日とも)携わりたくない」の合計が 79.3%にのぼり、逆に、「平日・休日（とも携わりたい）」は 6.5%にとどまっています。

続いて、28 ページの 11 をご覧ください。

「現在、部活動の指導や運営を負担に感じていますか。」との質問に、「感じている」45.8%、「やや感じている」30.1%となっています。「感じている」「やや感じている」の合計が 75.9%となっており、教員の負担感の高さが見て取れる結果となっています。

説明は以上です。

【委員長】

ただいまの説明について、ご質問等ございますでしょうか。

【C 委員】

このようなアンケートでは趣旨の伝え方や、質問の選択肢が非常に難しいと思いますが、現在の部活動をこのまま学校主体で継続していきたいと思っている子ども達は、4 ページの 6 「現在、参加している部活動について、困っていることはありますか。」の質問で、「該当なし」を選ぶと思いますし、少数派の競技の部活動では、「もっとちゃんとした部活動として活動したい」といった回答が出てくるのではないかと思います。現場の雰囲気をお願いしますと、なるべく変化を嫌うといえますか、現在の学校主体で動いている部活動を何とかこのまま継続したいといった声が多い気がいたします。ですので、分析にはも

う少し多角的な視点を入れていただければと思います。

また、3 ページの4「今後、部活動を通して、どのようなことを得たいですか。」という質問に対して「楽しさ」が78.9%、次に70.9%で「技能向上」とありますが、例えば試合で成果を残すことによる「楽しさ」があり、そこに通じるのは「技能向上」で、「技能向上」と「楽しさ」は切り離せないもので、対極に位置するものではないという認識を持っていただきたいと思います。

以上です。

【委員長】

興味深いアンケート結果ですね。先生方は専門であっても、専門でなくても部活動の指導や運営に携わりたくない。一方で、子どもや保護者は、資格のある専門的な指導者から指導を受けたい。両者の間にすごくギャップがあるのが現実ですね。資格の定義については、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導員の資格なのか、あるいは専門で競技をやっていたレベルでいいのかなどありますが、ただいずれにせよ、今、立川市でトライしている、大学生や、地域の指導者を入れていこうという方向性はすごく合ってると思いますので、何とかそこが拡充できるように、この後、皆様からご意見いただければと思います。

3. その他

(2) 意見交換

【委員長】

そうしましたら、これまでのところも含め、次第の3「その他」の(2)意見交換で、自由に意見交換したいと思います。

本日、トライアル事業の進捗や、来年度の方向性などについて事務局からご説明いただきました。ざっくばらんにご意見を頂戴し、来年度以降の立川市の部活動の地域連携・地域移行にこういった取組が必要なのか考えていきたいと
思います。こういった切り口でも結構ですので、ご意見お願いします。

【D委員】

先日、スポーツ協会の会合で、校長先生をされていた方とお会いしたので、

少し部活動のお話をしたのですが、その方はご自身も競技をされていて、「指導するのも、子ども達の成長を見るのも楽しかった。今の若い先生は、やる必要がなければ、やらなくてもいいというのは寂しい」と憂いておられました。当時の先生方のご負担と、現在の先生方のご負担を単純に比較することはできませんが、アンケート結果の26ページの8「自分の専門の部活動について、指導や運営に携わりたいですか。」の質問で、「携わりたくない」が45.2%というのを拝見すると、先生方の意識もだいぶ変わってきているのだろうということを実感しました。

また、「楽しさ」と「技能向上」の話ですが、私自身はクラブ活動をしているときは苦しい思いがありましたが、苦しい先に技術向上があり、仲間と一緒に楽しい時間も過ごせました。技術力があがれば、きっと楽しくなってくるのだろうという思いもございます。

以上でございます。

【委員長】

私も、昔、中学校の教員をしていたときは部活動指導していましたが、子が生まれたときに、「部活ばかり行って、産まなきゃよかった。」と妻から言われたことは忘れられません。そういった教員の家庭の実態もあります。

そのような時代に、先生方が熱心に取り組んでくださったことはすごくありがたいことですが、今の時代に、「昔はこうだったからもう少し頑張れ」というのは難しいかと思います。熱心に指導していただける方にはご協力いただきつつ、このアンケート結果に出ている「携わりたくない」と思っているような教員をサポートする環境を、立川市だけではなく、国が何とかしないと、子どものスポーツ・文化活動は先細ってしまうことになります。そのあたり、ご意見頂戴できればと思いますが、いかがでしょうか。

【C委員】

今と昔では価値観も変わっていて、先生方のボランティア精神に頼るようなスタンスはもう取れないだろうと思います。また、学校長を中心とした学校運営協議会等に出ていると、教員の1ヶ月当たりの勤務時間数や時間外労働が減

っていない現状等も提示されます。働き方改革が揚げられている以上そこは無視できない。であれば、予算を潤沢につけ、何でもトライアルする。その上で問題が出たら、早急に撤収するなり、次年度へ繋げていくことで、更なる可能性が広がるのではないかと思います。

始めなければどんどん時間が過ぎてしまい、中学校をベースにした部活動が続きながら、先生はやらなくなり、子ども達が活動の機会を失っていくことになります。土日の大会に、先生が引率に行かないから出場できないというようなことがあります。今後さらにそういったケースが増えていくのだろうと思われれます。

部活動外部指導員も単価が上がれば状況が変わるのではないのでしょうか。

また、前回の委員会で、大学や教育機関など、保険をかけてしまいがちになるとお話がありましたが、民間のサッカークラブや、元プロ野球選手の私塾など、いろいろあります。他市との連携や情報共有はさることながら、立川市中で別組織を作ってもいいぐらいだと思います。立川市の皆様には、思い切った手を、一歩踏み出す形をお願いしたいと思います。

【委員長】

貴重なご意見ありがとうございます。人の善意に頼るようですと継続しませんので、予算のことも含め、ドラスティックな改革をご検討いただけると大変ありがたいと思います。

【E委員】

アンケートの結果から、お子さん、親御さん、先生方の意見が、かなり乖離してるということが見て取れました。

平日でさえ部活動に携わりたくないという先生方が多いということになりますと、中学校の部活動のあり方といいますか、何を求めて部活動をやすべきなのか、根本のところを、もう少し考え直さなければいけないのかと思います。

今でも、カルチャースクールなどいろいろな団体がありますので、中学生が学びたいと思えば、スポーツも文化もいろいろな団体に入って活動することはできます。ただ、中学校の部活動には、先輩後輩との上下関係や、団体をまと

めていくこと学ぶ場所としての意味があったかと思います。

地域連携・地域移行になった途端に、部活動に入るお子さんが減っていくのではないかと考えられます。そのときに、そういったことを学べる場所と一緒に作っていかないと、地域連携・地域移行をする必要性があるのかどうかというところです。

先生方が中学校の部活動をどう考えているのか、もう少し知りたいと思いました。

【委員長】

中学校の先生方の部活動に対する教育的価値感は、昔と今とでは変わってきているのでしょうか。

【A委員】

まず、教員になる方がとても減ってきています。それには業務の多忙化があげられます。部活動をやりたいと思っている教員ももちろんいますが、部活動に行ってしまうと、その後に残りの仕事をしなければならず、常に仕事に追われ、なかなかモチベーションがあがらないのだと思います。

それが、アンケートだと、「携わりたくない」という回答になるのだと思いますが、「やる余裕がない」、「ゆとりがない」というのが現状です。

生徒たちについてですが、昔は技術力を高めて勝ちたいというのが主でしたが、今の生徒たちは、勝つよりもまず楽しみたいと言っています。

それでも、立川市の中学校は、部活動に対し、前向きに技術力を高めている方だと思います。他の地域ですと、もっとお楽しみクラブ的な要素が強いです。

昔の先生方からすると、部活動でいろいろなスキルを学んでほしいという思いはありますが、それを若い先生方に押し付けると離職率が高まってしまうところがあり、現状は難しいです。

今の職場を見ますと、子育て世代の教員が多く、家庭での役割分担も変わってきていますので、部活動にすべてを捧げることは難しいです。複数人の顧問で部活動を担当し、1人の教員に負担がかからないように、部活動を回しているのが現状です。

【F 委員】

先生方の意識ですが、基本的には人それぞれですから、一概にどうとは言えませんが、26 ページの 8 「自分の専門の部活動について、指導や運営に携わりたいですか」という質問に対し、45. 2%が携わりたくないと答えている。かつ、29 ページ 13 「部活動が地域に移行した際に、自分の専門の活動である場合、兼業・兼職の許可を受けて、地域クラブ活動の指導や運営に携わりたいですか。」という質問に対し、58. 1%が携わりたくないと答えている。これが今の先生方の意識の現状だと思います。

先ほど、委員長もおっしゃっていましたが、このアンケート結果を見ると、子ども達、保護者の方が期待していることと、先生方が感じていることが、マッチしていないと思われます。

以上です。

【委員長】

部活動については、昔から紆余曲折ありますが、部活動はそもそも課外活動なので、教育課程外の活動という位置付けです。ですから、先生方は、本来は断ろうと思ったら断れるものです。ただ、昔だと担当を割り振られ、土日も責任持ってやらなければいけないようなもので、そのまま続いてきているところがあります。

また、部活動は、生徒の主体的・自発的な活動という位置付けになっていて、本来は全国大会を目指したりするようなものでもありません。

部活動には、トップアスリートスポーツとか、コンクールで全国大会を目指すとか、そういうイメージがあるかと思いますが、決してそういうものではないということを、我々も、子どもも、保護者も理解しないといけない。皆さんの意見をお聞きしていて思いました。

【副委員長】

スポーツのそもそもの価値は、「面白い」、「楽しい」だと思いますが、つつい指導する側は、「競技力向上」を第一に考えてしまうので、先生方も大変になってしまうと思うんです。ですから、運動部活動については、もう少し多様性

を持たせなければいけないだろうと思います。

ただ、中には、競技力を向上したい子ども達もいますので、例えば、全市的に、不定期でもいいので、専門的な人を呼び、そこに生徒を集めて教えるような環境を作るというのも手かと思います。いずれにしても、本来のスポーツのあり方を、もう少し大事にしなければいけないと思います。

また、トライアル事業については、継続性が大事かと思います。トライアル事業の中に東京女子体育大学も入っておりますが、今、近隣市にこういったことが期待されるか調査をしており、その回答に対してマッチングできるかどうかを3月ぐらいまで調整し、4月から5月の前半あたりまで学生に教育をして、マッチングが成立したところで学生が指導する、というようなことになると思います。これについては、単位取得を目的の一つとした学生が部活動指導者の募集に応じてくることよりその費用は発生しませんが、ただ、やはり、常に希望をする学生がいるわけではないと思います。

部活動の地域連携・地域移行をする場合、継続性が重要ですので、大きな風呂敷を広げて、後が続かなくなる方が子ども達にとって良くないと思います。ですから、小さなことからコツコツと、できる範囲で、その代わり継続性は担保しないといけないだろうと思いました。

私も中学・高校で教員をしたこともあり、クラブが当たり前でしたが、28ページの11「現在、部活動の指導や運営を負担に感じていますか。」では、4人に3人が負担を感じている。これでは中学部活動は立ちゆかないですね。理由は12にあるように「教材研究」、「生徒指導」、「教員連絡」ということです。学校の先生は体育の先生ばかりではありませんし、致し方の無いことだと思います。

【委員長】

継続性はとても大切な視点ですね。

【G委員】

このアンケート結果の24ページですが、「担当している部活動に部活動指導員や外部指導員は配置されていますか。」の質問で、配置なしが51.1%となっ

ており、いろいろ事情があるのですが、もったいないなと思いました。

吹奏楽では夏に 30 名から 50 名ぐらいで出場するコンクールがありますが、冬にはアンサンブル大会があります。こちらは 3 人から 10 人で出られるため、部員が少ない吹奏楽部でも出られるというメリットがあります。そのかわり、人数が少ない分、技術力が必要です。私も立川市内の中学校 2 校と、都内の中高一貫校 3 校に、アンサンブル大会の 1 週間ほど前から指導に行きました。そのわずかな時間でも、子ども達はすごく成長します。ですから、もっと多くの吹奏楽部で外部指導者が教えてあげられればいいのに、と思っております。

それから、アンケート結果で、お子さん達が部活動を通して得たいこととして「楽しさ」と「技能向上」が 1 番目と 2 番目になっているのにはうなずけます。子ども達は上手になるとニコニコ、生き生きとした顔になります。やはり「上手くなる」と「楽しくなる」は、一緒なんだと思います。

それと、先生方に「余裕がない」というのは、指導に行っても感じます。ですから、外部指導者などをうまく活用し、子ども達に少しでも上手くなって、楽しさを感じてもらえたらいいなと思い、活動をしております。

最近の状況について報告させていただきました。

【H 委員】

部活動の地域連携・地域移行の話は、生徒のために、生徒がより良い選択ができるように、というのが大前提だったはずです。

このアンケートですと、教員の約 70% 以上が負担に感じている。保護者・生徒は、専門的な指導を求めている。それなのに、トライアル事業の指導者の時給が 1,000 円というのは、全然合っていないと思います。先生に代わり、持続的に、責任ある専門的な指導をするということであれば、時給を上げることも考えなければいけないのではないのでしょうか。時間を長くするという事とは違うと思いました。

あと、スポーツ協会加盟団体も後ろ向きなわけではありませんが、怪我の問題、時給、交通費、責任の所在など、はっきりしてこないのも、二の足を踏んでるところもあるかと思います。

スピード感を持たないと、来年度もトライアルのまま行ってしまう気がしま

す。

ちなみに、第3次スポーツ推進計画では、「スポーツで笑顔あふれる立川」というキャッチフレーズが出てくるかと思いますが、中学生だけが、笑顔あふれない状況になってはいけないと感じたところです。

以上です。

【C委員】

先ほど、潤沢な予算をつけ、何でもトライアルしないと、というような発言をさせていただき、そう思っているのですが、「本来の中学校の部活動の位置付けに立ち返る必要がある」というお話も踏まえると、競技的な技術向上を目指すのではなく、学校生活プラスアルファの仲間作りや、楽しみをメインにするような課外サークルに位置付け、そこに教員等がいなければならないとことであれば、教員に代わる人を配置するための予算を付ける、というような形に最終的に収まっていくのだろうと思いました。

すべての教員が技術力をもっているわけではないし、地域の方もそういうわけではない。元プロ野球選手の私塾という話もしましたが、そういう方を公立中学校全てに均等に割り振るのはおそらく不可能です。

ごく一部の私立高校や、代表的な大学などでは、スポーツ競技に非常に力を入れているところもありますが、中学校・高校の競技選手たちが民間のクラブで技術を磨くというのは昔からあった構図です。

アンケートの結果としても出ているように、先生方の働き方改革との整合性を持たせていくと、部活動は縮小した上で、やれることをやっていくしかないのかと思います。保護者の方にも、これから中学生になる方にも、ご理解いただけるよう啓蒙していくしかないのではないのでしょうか。

ただ、1回は風呂敷を広げ、やることを全部やり、その上で無理だったところを削り、消去法のようにして、そのような結果に向かうのか、それとも最初から定義から入り、こういう形で立川市は行くんだというのを決めて、その上でやるとなると、こういう散らかった議論にはならないだろうと思います。

ですから、定義が先か、トライアルでやれることからやっていくのか、定義が必要なのか否か、事務局の方にも考えていただきたいと思います。

【委員長】

時間が迫っておりますので、私が思ったことを最後にお話させていただきたいと思います。

トライアルについて、以前もお話しましたが、卒業生をうまく使えないかということは思います。自宅から大学に通う学生や、夏に帰省する学生など、本学にも地域に戻り部活動指導している学生はいます。例えば、中学校を卒業するときに声をかけ、名簿化しておくなどすると、大学生になった3年後、4年後に生きてくるかもしれません。そんなに難しいことではないかと思いました。

あとは、体育会系の部活動に入る学生は少ないのですが、サークルに入る学生は多く、本学でもテニス部の部員はほとんどいませんが、テニスサークルは5つほどあり、サークルにも技術力がある学生がたくさんいます。ですので、対象となる大学生についても、体育会系だけでなく、サークル活動まで裾野を広げていくと、大学も協力できるのではないかと思います。

もう一つ、もう、スポーツ活動も文化活動も、ただで教えてもらうような時代ではないので、保護者に受益者負担を求めていると思います。

市に予算がないのであれば、保護者に子どもを育てるためにご協力いただけないかということを、きちんと説明し、指導員1人にあとに200円か300円追加した時給出せるくらいの金額を負担してもらえばいいと思います。説明については、学校単位ではなく市としてやるべきかと思います。

いろいろなご意見がありましたが、我々世代が活動した部活動に、今の子ども達や地域を当てはめていくような地域連携・地域移行は無理だと思います。

今の時代に合った部活動をどう構築していくかということに関わり、「人をどう手当するか」、「子どもをどう育てるか」ということに考えを変えていかないと、このまま同じような議論を続けることになると思いますので、そのあたりは私達がもう少し柔軟に考え、「部活の敷居を下げていく」とか、「もう少しこじんまりとした部活動を考えていく」など、それこそ地域の実情に合わせ、情報を得ながら進めていくことが、近道なのではないかと思います。ぜひそのあたりもご検討いただけると良いかと思いました。

最後に事務局から、ご案内等あればお願いします。

【事務局・主任指導主事】

皆様、ご意見等ありがとうございました。いただいたご意見等を踏まえ、この後どういった形で進めていくのか、ダイナミックに変えていくのか、次年度も検討していきたいと思っております。

それでは事務局から事務連絡をさせていただきます。今年度の検討委員会につきましては本回で終了となりますが、令和7年度につきましても、全2回の検討委員会の開催を予定しております。引き続きご協力賜りたく、どうぞよろしく願いいたします。

事務局からは以上です。

【委員長】

来年度も引き続き皆さんで、立川の子ども達のために、一緒に考えていけたらと思います。

これをもちまして、令和6年度第2回立川市立中学校部活動の地域連携及び地域移行に関する検討委員会を終了いたします。

ご協力ありがとうございました。

— 終了 —